

表彰の理由

(財) 庭野平和財団(庭野日鑛総裁、長沼基之理事長)は、「第18回庭野平和賞」を聖職者で教育者でもあるイスラエルのエリヤス・チャコール師(61歳、パレスチナ人、カトリック・メルキト派、マー・エリヤス学園総長)に贈ることを決定しました。世界125カ国、約1000人の識者に推薦を依頼し、仏教、キリスト教、イスラム教など7人で構成される審査委員会で厳正な審査を行い、決定されたものです。

チャコール師は、ユダヤ人とパレスチナ人の融和を目指し、これまで30年余にわたって身命を賭した活動を展開してきました。特に、チャコール師が創立した教育機関、マー・エリヤス学園(Mar Elias Educational Institutions)は、宗教や民族の相違を超えた青少年のための相互理解の場として機能し、平和と正義を愛する多くの人材を輩出しています。今では、平和社会の実現に向けた教育によるこの取り組みは他の宗教者からも大きく注目されるようになりました。チャコール師は、混迷するイスラエル・パレスチナ問題に、未来への光を与える人物の一人なのです。

1939年、チャコール師は、イスラエルのガリラヤ地方に位置するビラム村で、パレスチナ人キリスト教徒(メルキト派)の両親のもとに生まれました。そして8歳の時、耐えがたい民族の悲劇を体験します。ユダヤ人入植者によって村を追われ、国内の避難民となつたのであります。チャコール師の両親は、新しく移住してきたユダヤ人に雇われ、食べ物と引き換えにイチジクやオリーブなどを採集していました。その生活の中で、一日中泣いている両親の姿を見続けてきました。

一般的に、迫害を受けた者は、怒りに震え、暴力による報復、復讐を目指しがちです。しかし、チャコール師は、決してそうした道は選ぼうとしませんでした。ユダヤ人もまた、ナチス・ドイツによって迫害を受けた犠牲者でした。チャコール師は、暴力に対して暴力で応える代わりに、パレスチナ人とユダヤ人の間に存在する暴力、猜疑心、激しい憎悪の悪循環を絶つための行動に立ち上りました。ユダヤ人の友人と協力してアラブ避難民に対して行われている理不尽な行為に抗議するため、ユダヤ人とアラブ人による行進を実施しましたが、この行進はイスラエル当局から少なからぬ迫害を受けました。

未来の社会を改善していくためには、まずお互いに学び合わなければならぬ——そう確信したチャコール師は、ナザレで聖職位に就いたのち、1982年、ガリラヤ地方のイビリン村に高等学校を創立しました。当初の学生数は約80名でしたが、それがマー・エリヤス学園の第一歩となりました。しかし、高等学校創立に至るまでの道のりは非常に厳しいもので、特にイスラエル政府から認可を得ることは困難を極めました。師は「小さな水の滴でも同じ岩の同じ場所に落とし続ければ、最終的にはその岩を壊すことができる。同様に、忍耐強い信仰の力は憎しみ、拒絶、暴力的な不正義といった壁を壊すことができる。」(チャコール師著『我が祖国』より引用)の信念で、ユダヤ人とパレスチナ人の平和的共存を切に訴え、ついに学校創設への道を切り開いたのです。

教育を通して和解と共存を図ることは、世界中の様々な場所で試みられていますが、1982年当時の状況を推し量れば、パレスチナ人であるチャコール師の果敢な挑戦は多くの同志に勇気と希望を与えたはずです。

その後、幼稚園、小学校、工学技術大学、科学技術学校、さらに教員センター、宗教多元論センターなどが次々誕生し、現在、マー・エリアス学園には、イスラエル全土から4,000名以上の学生が在籍しています。

マー・エリアス学園は、異なった宗教を持つあらゆるイスラエル市民に門戸を開放しています。ユダヤ教徒であれ、イスラム教徒であれ、キリスト教徒であれ、若い世代同士が協力して未来を形成していく、いわばイスラエルのオアシスになることを目標としています。マー・エリアス学園は、宗教的中立と対話の姿勢で、共生へ向けた実践的教育が行われる出会いの場なのです。

現在、イスラエルとパレスチナ自治政府の間では、対立的、分裂的状況が続いています。和解への道筋はなかなか見えてきません。だからこそチャコール師は次のように言われます。

「政府や国家元首間の国際合意や平和条約の調印などは、不安定で崩れやすい。それらは紙の上のみで調印されたものであり、心に根ざしていない。私たちは、マー・エリアス学園の教育活動を通して、若い世代、次代のリーダーたちの心に合意が形成されることを望んでいる。若いユダヤ人、パレスチナ人のキリスト教徒、イスラム教徒の心に植えつけられた和解と合意を目指す心の根は、簡単にはなくならない。」

こうしたチャコール師の真の共生に向けた活動は、世界的にも大きな評価を受けています。1994年には、カーター元米国大統領、サダト元エジプト大統領、アナン国連事務総長、ゴルバチョフ旧ソ連大統領などに贈呈された「世界メソジスト平和賞」を受賞しました。著書『血を分けた兄弟達』は28カ国語に翻訳され、多くの人々に平和への指針を与えてています。

真の平和は、人の心を変えない限り実現しません。その意味からも、庭野平和財団は、チャコール師の教育を基盤とした平和への献身に深く敬意を表し、またこれまでの多大な功績を顕彰すると共に、さらに多くの同志が輩出されることを念願して、ここに「第18回庭野平和賞」を贈るものであります。